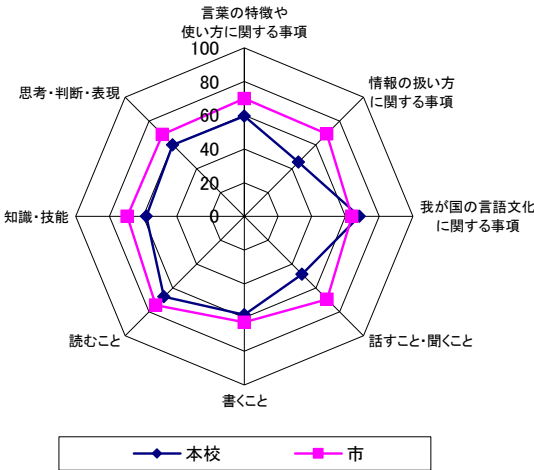


宇都宮市立富屋小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                 | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 59.5 | 69.9 | 72.3 |
|     | 情報の扱い方に関する事項    | 45.5 | 69.2 | 73.0 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項  | 68.2 | 63.8 | 66.0 |
|     | 話すこと・聞くこと       | 48.5 | 69.5 | 71.5 |
|     | 書くこと            | 58.3 | 62.8 | 67.1 |
|     | 読むこと            | 67.4 | 74.4 | 73.7 |
| 観点別 | 知識・技能           | 58.1 | 69.4 | 71.9 |
|     | 思考・判断・表現        | 60.0 | 68.8 | 70.6 |
|     |                 |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

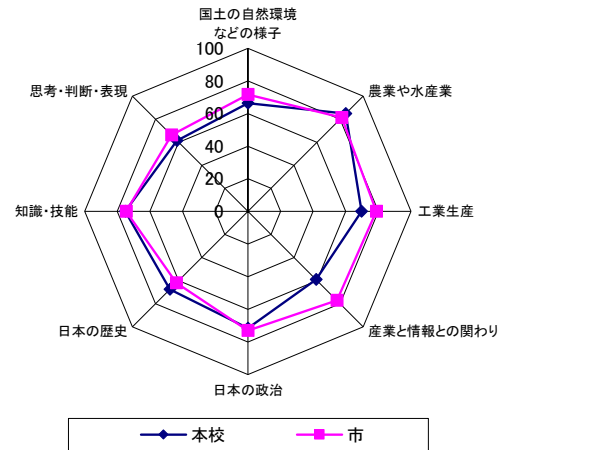
| 領域                  | 本年度の状況   | 今後の指導の重点  |
|---------------------|--|---|
| 言葉の特徴や<br>使い方に関する事項 | 領域の平均正答率は、市の平均を大きく下回った。<br>○「段落の役割の理解・二段構成での作文」については、市の平均を上回った。<br>○「漢字を読む」の理解については、市の平均を下回ったが、3分の2の児童は理解しており、正答率は高かった。<br>●「漢字を書く」の理解については、市の平均を下回り、3分の2の児童の正答率が低かった。 | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・漢字練習や漢字テストを重ね、徐々に漢字を読むことの力は付いてきている状況にあるが、5年生で学習した漢字を忘れて<br>いる児童が多く、継続した漢字学習に取り組む必要がある。<br>・言葉の意味を考える力や文章を読み取る力については、自<br>分が使っている言葉を別の言葉で言い換えるトレーニングをし<br>たり、読書をする習慣をつけたり日常的に指導していく必要が<br>ある。 |
| 情報の扱い方<br>に関する事項    | 領域の平均正答率は、市の平均を大きく下回った。<br>●「情報と情報との関係を理解し、目的に応じて文章<br>を簡単にまとめて書くこと」は市の平均を大きく下回り、<br>3分の1の児童が無回答という状況である。  | ・資料をもとに、内容を読み取ったことを文章に書くことに課題<br>がみられる。今後も、資料を活用して、目的に合った文章を書<br>く活動を取り入れた指導をしていく。  |
| 我が国の言語文化<br>に関する事項  | 領域の平均正答率は、市の平均を上回った。<br>○児童全体の3分の2以上が、語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している。   | ・今後も、文字の成り立ちから漢字指導を行う等、言葉の力を<br>育てる活動を取り入れた指導をしていく。   |
| 話すこと・聞くこと           | 領域の平均正答率は、市の平均を大きく下回った。<br>●「インタビューの内容を聞き取る」の「意図に応じて<br>質問を工夫している」の理解については、市の平均を<br>大きく下回っている。   | ・話し合い活動の中で、意見を正確に聞き取り、話し手の工夫<br>を捉えたり、話し合いの方向を見定めて計画的に話し合ったり<br>することについて課題がある。相手の意見を聞き取るだけでな<br>く、テーマに沿って話し合ったり、意見を受けて自分の意見を<br>述べたりする活動を取り入れた指導をしていく。  |
| 書くこと                | 領域の平均正答率は、市の平均を下回った。<br>○「文章を書く」の理解では、市の平均を上回っている<br>項目が多い。<br>●「ポスターを作る」の理解では、「情報と情報との関<br>係を理解し、目的に応じて文章を簡単にまとめて書くこ<br>と」が、市の平均を大きく下回っており、3分の1の児童<br>が無回答という状況である。   | ・読み取った事実を、指定された条件で文章を書くことは、視<br>写や作文の活動を積むことで力をつけてきているが、予想さ<br>れる反論とそれに対する自分の考えを具体的に書くことを苦<br>手としているので、話し合い活動を取り入れた授業を実施し、<br>指導していく。   |
| 読むこと                | 領域の平均正答率は、市の平均を下回った。<br>○「物語の内容を読み取る」の「登場人物の心情を読<br>み取る」の理解は、市の平均とほぼ同じである。<br>●「説明文の内容を読み取る」の「情報と情報との関係<br>について理解し、文章の情報を整理している」の理解<br>は、市の平均を大きく下回った。                 | ・物語文では、情景描写や人物の行動から心情を考えさせる<br>活動に取り組んできたが、今後も、描写から心情、心情に伴う<br>描写などについて考えさせる活動を取り入れて指導を行って<br>いく。<br>・説明文では、文章全体の構成を捉えるため、段落構成につ<br>いて考えさせ、文章を序論・本論・結論に分けてそれぞれの内<br>容を簡潔にまとめたり整理したりする活動を取り入れて指導し<br>ていく。                  |

宇都宮市立富屋小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |              | 本年度  |      |      |
|-----|--------------|------|------|------|
|     |              | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 66.4 | 71.6 | 67.5 |
|     | 農業や水産業       | 84.8 | 81.5 | 82.1 |
|     | 工業生産         | 69.7 | 78.7 | 70.8 |
|     | 産業と情報との関わり   | 59.1 | 77.2 | 68.2 |
|     | 日本の政治        | 71.6 | 73.1 | 77.9 |
|     | 日本の歴史        | 67.6 | 62.0 | 65.8 |
| 観点別 | 知識・技能        | 75.2 | 74.6 | 74.5 |
|     | 思考・判断・表現     | 61.4 | 66.2 | 65.2 |
|     |              |      |      |      |
|     |              |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

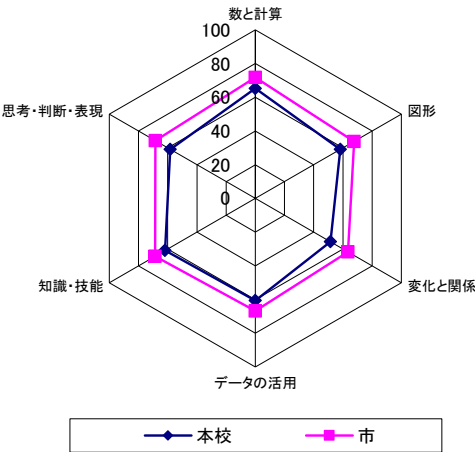
| 領域           | 本年度の状況   | 今後の指導の重点  |
|--------------|--|---|
| 国土の自然環境などの様子 | 市の平均正答率をやや下回っている。<br>○海洋の名称や防潮堤の設置の目的については、理解されている。<br>●日本のおもな河川の名称について、身に付いていない児童が市の平均で3分の2、本校では4分の3いる。<br>●森林の働きについて、資料中の言葉を使ってまとめる作業において、市の平均正答率を9ポイント下回っており、資料を活用して回答することに課題が見られる。                     | ・地図や地球儀に親しむ時間を取り、基本的な地名や河川名、海洋名など、繰り返し学ぶ場を設ける。<br>・資料を読み解く力をはぐむため、日ごろから、教科書や資料集に掲載されている資料から分かることを言語化させ、その内容を共有する。併せて、どのような視点で資料を読み取っていくのか、適切な助言を行う。     |
| 農業や水産業       | 市の平均正答率を上回っている。<br>○農産物の産地について、また、地産地消の取り組みについて、ほとんどの児童が理解している。<br>●カントリーエレベーターの役割について、理解していない児童が5人（約20パーセント）いた。米作りの学習の際に学んだことが定着していなかったと考えられる。  | ・引き続き、日本の食糧生産について、資料等を用い、学習していくことを、児童に投げかける。<br>・5年時の稲作の学習を振り返り、米作りの生産の工程で学んだ事象や言葉について、確認する。  |
| 工業生産         | 市の平均正答率を9ポイント下回っている。<br>○自動車の組み立ての行程、並びに円グラフを用いた日本の輸出品の年代ごとの変化については、市の平均と同等もしくは大きく上回った。<br>●自動車の出荷方法について、資料（写真）を見て、考える問題において、正答者が6名であり、市の平均を35ポイントも下回った。資料を活用し、既成の学習内容と関連付けて考えることに大きな課題がある。                | ・図や写真、資料を用いて、考えたり、説明したりする機会を多く設け、意見交流をするなど、学習活動の質の向上を図る。<br>・資料活用能力について、6学年のみで身に付く力ではないので、学校全体の課題として、教師が教える場面、児童が考える場面を授業の中でどこに組み入れるか、教師が意図し、授業を展開していく。 |
| 産業と情報との関わり   | ・市の平均正答率を大きく（-18ポイント）下回っている。<br>○メディアの分類については市の平均と同等であった。<br>●実際の生活の場面において、どのように情報が活用されているのかについて考え、適切な解答を選択する問題では、市の平均が62.8ポイントなのにに対し、本校は31.8ポイントと大きく下回った。用いられている資料に活字が多く、読み取ることができなかつた児童が多かったと推測される。      | ・前述に同じだが、資料を用い、考えたり説明したりする機会を多く設けることが必要である。また、資料に書いてある内容を把握するためには、言語活動が必須なのは言うまでもなく、日ごろから多くの活字に触れることができるように、新聞や長い文章の本に親しませるなど、学校全体として取り組む必要がある。         |
| 日本の政治        | ・市の平均正答率とほぼ同等である。<br>○日本国憲法や政治について、4問とも市の平均と同等であった。  | ・引き続き、我が国の政治の働きについて、授業の充実を図るとともに、日ごろから、新聞やニュースを教室で話題するなどし、政治に関心をもって生活していけるようにする。  |
| 日本の歴史        | ・市の平均正答率を上回っている。<br>○8つある設問のうち、5つの設問で市の正答率を上回っている。特に大和朝廷、室町文化、戦国時代に関する設問では10～26ポイント以上上回った。<br>●鎌倉時代、北条政子が御家人の前で演説をするにいたった経緯を、歴史上の事象に結び付けて答える問題での正答率が市の正答率に比べ17ポイント下回った。一つの出来事を全体の歴史の中に位置づけることに課題があると考えられる。 | ・歴史に関する設問はクラス全体としてよくできていた。引き続き、歴史上の主な事象についての授業を充実させ、歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、そこから学んだことを国家や社会の発展に生かしていこうとする態度を養っていききたい。                                  |

宇都宮市立富屋小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 数と計算     | 65.3 | 71.8 | 76.2 |
|     | 図形       | 58.2 | 67.7 | 67.8 |
|     | 変化と関係    | 51.5 | 63.4 | 62.7 |
|     | データの活用   | 60.6 | 66.7 | 61.5 |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 61.8 | 68.6 | 70.7 |
|     | 思考・判断・表現 | 58.2 | 68.5 | 66.0 |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

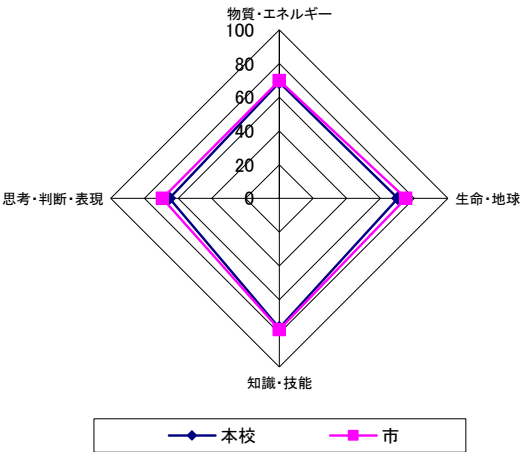
| 領域     | 本年度の状況  | 今後の指導の重点   |
|--------|---|--|
| 数と計算   | 領域の平均正答率は市の平均を下回った。<br>○分数の計算は市の平均を上回った。<br>●小数の文章問題や2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題については、市の平均を大きく下回った。  | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・計算の基礎・基本は身に付いてきているが、まだ十分とは言えない。小数や分数の計算については、復習する必要がある。今後は、練習問題の量を増やし、確実な定着を目指す。<br>・計算の機械的なやり方を学習するだけでなく、式の意味やなぜそうなるのかを考えたり、図で表したりすることで、思考力の育成を図る。 |
| 図形     | 領域の平均正答率は市の平均を下回った。<br>○高さが図形の外にある三角形の面積を求める問題、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題は、市の平均を上回った。<br>●直方体を組み合わせた形の体積を求める問題や、線対称な図形について、対象の軸が何本あるか求める問題については、市の平均を下回った。 | ・基本的な図形の面積や体積を求める力は身に付いてきている。しかし、直方体を組み合わせた形の体積を求める問題については定着していない。朝の学習や宿題などで復習する活動を取り入れていく。<br>・線対称な図形や点対称な図形については復習が必要であるので、それぞれの図形の特徴の理解を深めるために、朝の学習などを活用して、繰り返し確認する。          |
| 変化と関係  | 領域の平均正答率は市の平均を下回った。<br>○図から面積と数を求め、どのうさぎ小屋が最も混んでいるかを答える問題は、市の平均を大きく上回った。<br>●基準量と比較量から割合を求める問題、速さの単位の間隔を理解し、時速を秒速や分速に直す問題については、市の平均を大きく下回った。              | ・基本的な時速の求め方はもちろん、単位換算がある内容についても取り組ませることが必要である。復習として、すべての単位のしくみなど基礎的なことを定着させるために、繰り返し学習させて確実に身につけさせたい。  |
| データの活用 | 領域の平均正答率は市の平均を下回った。<br>○値に0がある連続量の平均を求める問題、折れ線グラフを読み取る問題は、市の平均を上回った。<br>●ヒストグラムを正しく読み取る問題については、市の平均を大きく下回った。  | ・それぞれのグラフの読み取り方、言葉の意味について復習をする。<br>・記述式の問題を読み取る力を育てるために、日頃の授業で文章題を取り扱い、分かっている情報と問題部分に線を引かせるなどして、問題の意味を理解させる力を育てていきたい。  |
|        |   |  |
|        |   |  |

宇都宮市立富屋小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 68.8 | 69.9 | 67.8 |
|     | 生命・地球    | 70.3 | 75.1 | 73.7 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 76.9 | 77.8 | 78.4 |
|     | 思考・判断・表現 | 65.2 | 69.4 | 66.2 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域       | 本年度の状況  | 今後の指導の重点  |
|----------|---|---|
| 物質・エネルギー | 領域の平均正答率は市の平均を下回った。<br>○「水よう液の性質」では食塩水、うすい塩酸、炭酸水、うすいアンモニア水を区別する実験の問題について、市の平均を上回った。<br>●「ふりこのきまり」と「電流のはたらき」に関する問題については、市の平均を下回った。     | ・特にふりこの1往復する時間の求め方について復習する必要がある。朝の学習や宿題等で、ふりこの長さや重さと、往復する時間の関係を取り上げ、定着を図る。<br>・それぞれの実験についての知識・理解に関する内容を重点的に指導し、各学年で学習した内容を復習させることで、基礎的内容の定着を図る。 |
| 生命・地球    | 領域の平均正答率は市の平均を下回った。<br>○「動物のからだのつくりとはたらき」の、空気中にふくまれている気体の問題や、実験の結果から呼吸のはたらきを記述する問題について、市の平均正答率をやや上回った。<br>●「植物の発芽と成長」については、市の平均を下回った。 | ・特に植物の葉と日光の関係について復習する必要がある。朝の学習や宿題等で取り上げ、繰り返し確認していく。<br>・小学校理科の総まとめとして、各学年で学習した内容を再度復習させ、過去の実験を振り返り、結果を基に考察する活動を取り入れ、科学的な思考力・表現力の育成に努める。        |
|          |   |   |
|          |   |   |
|          |   |   |
|          |   |   |

## 宇都宮市立富屋小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                             | 取組の具体的な内容   | 取組に関わる調査結果  |
|------------------------------------|---|---|
| 多様な視点から課題について考えることができる協働的な学習の指導の工夫 | 目的に応じたグループ学習や視点を明確にした話し合い活動を、教師が意図的にコーディネートする。                    | 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加していますか」に肯定的に回答した児童の割合は、1、2、4、6年では市の平均と同等か上回っているが、3、5年は下回っており、学年による差が大きい。 |
| 分かりやすく伝える力や、正確に受け止め学び合う力を育てる工夫     | 一人一人の思いや願いをもとに、共通の視点をもって話し合うことができるよう、事前に自分の考えを書かせることで、伝える力の向上を図る。 | 「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる」に肯定的に回答した児童の割合に関しても、学年による差が大きい。  |

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・4年、6年は、国語の記述式設題「自分の意見とその理由を明確にして書いている」に関する肯定回答率において、市や県の平均を上回っている。しかし、5年において県の平均を下回っており書く、話すといった表現力の育成において、まだ不十分な面が見られる。次年度も継続して、すべての学年において、自分の考えを明確にして書くことや理由をあげながら話すことといった指導を教科横断的に行い、表現力育成に努める。また、すべての教科において、基礎的基本的な内容の定着を図れるよう、更なる家庭学習の充実や朝の学習の時間の活用に取り組む。

・「先生や友だちの話を最後まできちんと聞いている」の固定的回答率は、4つの学年で市の平均と同等か上回っている。今後も、聞いたことをもとに、自分の考えを話す活動を取り入れたい。